

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2371300191		
法人名	営利法人株式会社 ライフケア みおつくし		
事業所名	グループホーム みおつくし		
所在地	愛知県名古屋守山区竜泉寺二丁目1139番地		
自己評価作成日	平成22年12月15日	評価結果市町村受理日	平成23年3月4日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ホームは豊かな森の中にある民家改造型の施設です。近くには緑地公園もあり春は桜、秋は紅葉と折々の季節を見せてくれます。ホームの庭では柿と蜜柑の木があり秋には収穫を楽しみます。畑では季節の野菜作りにも力を入れ草取りや水やりも利用者様の楽しみとなっています。地域の皆様との交流もあり自家栽培の野菜を頂いたりホームでお茶を楽しんで貰ったりと暖かな関係を築いています。町内清掃や町内会の参加も積極的に取り組んでいます。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigo-kouhyou-aichi.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=2371300191&SCD=320
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人『サークル・福寿草』
所在地	愛知県名古屋市中村区松原町一丁目24番地 COMBi本陣S101号室
訪問調査日	平成23年1月27日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

介護保険の始まる前からのホームであり、地域のなかで必要とされながら開設され、始めは宅老所として、介護保険制度が後からついてきたホームであり、グループホームの草分け的存在である。ホームでは、職員の思い「やすらぎ」をそのまま理念とし、「自分が入りたい、家族に入ってほしいグループホーム」を目指している。さらに、協力医と訪問看護が毎週訪問し、体調管理を行い、歯科の往診も随時行われ、健康面での支援も充分である。しかしながら、古民家を改装し、工夫の跡が窺えるが、防災対策、トイレ対応等、設備面で多くの課題あるとの事で、検討を重ねながら2ユニットのホームとして再出発する計画である。利用者も入居期間の長い方、高齢の方が多く、ホームを「自分の家」としてよく馴染んでおり、今後は、新しいホームが建ち上がるのを皆で楽しみにしている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員は理念である[やすらぎ]を念頭におき、個々の利用者に寄り添う介護を実践し毎月のケアカンファレンスには全員が出席し協働でケアするを実践している。	立ち上げの時の、素直な職員の思いを一言で「やすらぎ」を理念とし、さらにケア実践時の職員の心構えとなっている。理念は、職員で朝唱和したり、カンファレンスの際にも理念に沿った話し合いが行われ、リビングにも掲げられている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会にも積極的に参加し組長も経験している。町内の清掃活動や祭礼の招待も受け細町会にも参加させていただいている。近隣の農家の方からは自家栽培の野菜を届けて下さったりと良い関係を築いている。	町内会に加入し、回覧板も回している。町内の掃除や祭り、地区の運動会にも参加している。介護相談はいつでも受ける姿勢である。また、福祉学科の学生の実習の受け入れも行い、後進を育てる役割も果たしている。	ホーム改築後は、地域の人との交流やボランティアの受け入れが、今までよりも行えることと期待される。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	細町会を通して町内の各組長の方々に施設での取り組みや催し物の招待を行っている。近隣の方も気軽にホームを覗いて下さり、お茶を飲んで行ってもらっている。毎年社会福祉協議会主催の福祉祭りにも参加させていただいている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	二か月に一度、自治会長、民生員、家族、医師、施設職員、ケアマネが出席しホームの活動報告や行事計画について話し合いを持っている。災害時の協力体制についても話し合いを持っている。	2か月に1回開催され、地域包括支援センター職員も出席している。トイレを直してほしいとの要望を検討し、耐震性も考慮し、災害時の協力関係等を話し合いながら、ホームを全面改築する決定がなされるに至っている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	地域包括支援センターの職員の方に運営推進会議に出席してもらいアドバイスを頂いたり講義をして下さったりと良い関係を築いている。また生活保護の方を受け入れている為、区の担当者とは密に連絡を取り合っている。	利用者の事務手続きのため、区の担当課に出向くことが多く、多方面の情報交換が密になされるようになってきている。地域包括支援センターが「高齢者入所施設」の冊子作成時に、情報提供等をしている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	毎月のケアカンファレンスの時に身体拘束について正しく理解できるように具体的な行為についても話し合いを行っている。またホームの心得にもなっている。夜間以外は施錠せず自由な暮らしを支えている。	玄関は夜間だけの施錠である。カンファレンスの際には、ケアの工夫で身体拘束を回避する話し合いを行っている。緊急やむを得ず行った場合は記録を残し、家族に報告している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	管理者やスタッフは常に虐待について検証しあい、ビデオによる勉強会を開いたり、話し合いを持ち虐待が見過ごされていないかの確認を行い防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見が必要なケースでは管理者と事業者のみで対応を行っており他のスタッフは理解が十分でない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用者とその家族に対して入居前に十分な話し合いを持ち、入居後にも不明な点があれば説明をし理解頂けるよう努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家庭的な雰囲気を中心家族や知人の方がいつでも訪問しやすく何でも相談して頂けるように努めている。運営推進会議や行事等の参加もホーム便りで呼び掛け意見を聞くようにしている。	家族には、自由記述式の要望書を年2回送付している。感謝の言葉、要望、提案等、多くの言葉が寄せられている。職員は、家族が来所した際には、気軽に話せる環境を作り、要望を汲み取っている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月のケアカンファレンスは全ての職員が出席し誰もが意見を言うようにオープンにして職員同士で考え、問題を提議しあい意義の有るものとし運営に反映させている。	気付いた時点で管理者に提案したり、職員同士で話し合いまとめたものを、カンファレンスで提案している。内容によっては、法人幹部会でも検討されている。どのような提案にも、検討結果を伝えるようにしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	施設独自の自己評価表を用い自身の評価、他者の評価を無記名で行い勤労状況や実績により給与のベースアップに繋げ職員のやりがいや向上心が持てるよう努めている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	管理者は職員の質の向上の為法人内外を問わず研修の支援や情報等を提示し参加を奨励している。その為の勤務の移動も行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人内の他のグループホームも幾つかあり勉強会や合同の催し物など共に取り組み活発な意見交換や時にはお茶会等を開き個々の問題の解決やリフレッシュの場になっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービスの問い合わせの段階から必ずご本人、ご家族と向き合いその思いや言葉に耳を傾け利用者が安心して暮らせる関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	利用料などの予め予想のつく不安材料などは詳細に提示し、個々の問題や要望などに耳を傾け信頼関係が築けるよう心掛けている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	早急な対応が必要な相談者には可能な限り迅速に対応を行い地域包括支援センターや他の事業所との連携を図り、幅広く柔軟な対応を心掛けている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	古くからの行事やしきたりなど若いスタッフが教えて頂く事は沢山あり尊敬と年長者を敬う姿勢で対応している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	職員は家族の思いに寄り添い毎日の暮らしの中で気付いた事や新たな出来事等を申し送りの機会やカンファレンス等で共有しご家族に伝える事で信頼関係が出来ている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	施設には主治医がいるが以前より通い慣れた病院を望まれる方が居られる為ご家族と共に診察の同行をして普段の様子を話し診療をスムーズに行えるよう支援している。何時でも気軽に面会に来られるようあえて面会時間を設けていない。	利用者が年賀状を出すことを実感してもらうように、ポストへ一緒に行っている。電話を掛ける際に間違えないように支援している。さらに、以前の馴染みのある店の方が訪ねてきたり、ホームの元看護師が来たり、野菜や漬物を頂く事もある。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	個人を尊重し好きな時に好きなことをして頂く事を念頭に入れ自然に輪が出来よう職員は周りからゆったりとサポートしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所された後も介護の問題やケアについて相談に応じ利用者や家族のフォローに努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	毎日の暮らしの中の少しの時間を有効に使い入浴介助の時、入床前の着替えの時、夕食後のゆったりした時間などに個別で話を伺い信頼関係を築くよう努めている。	日頃から傾聴に心がけ、一人ひとりから汲み取った思いや意向をカンファレンスで持ち寄り、共有に努めている。入浴介助時のような、一対一になれるときは、特にゆったりと聴くように心掛けている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用者のバックグラウンドを重要な位置に捉え家族や知人、既往歴、以前のサービス担当者などと利用者確認のもと協働して把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	職員は毎日の暮らしの中で利用者ひとり、ひとりの生活のリズムを理解するよう心掛け小さな行動やその日の出来事を記録に取り職員間で周知し把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月に行われる定例のカンファレンス時に職員全員で討議しあい現在の状況、以前の状況を比較しながら検討したうえで、介護計画に反映させている。医療の分野等の専門的な知識では主治医のアドバイスも受け実りのあるものとしている。	体調変化のあった場合は、随時、担当医の指示、看護師の助言、家族と利用者の意向、職員の意見を参考に、プラン変更を行っている。変化のない場合は、毎月のカンファレンス記録を参考に、6か月ごとに見直しを行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	職員の小さな気づきや、バイタルの異常、排泄の記録、食事と水分の摂取量までを毎日の介護記録に書き込み職員間で共有している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	職員は利用者の思いや、家族の意向に配慮しながら付き添い通院や緊急時の外泊に、突然の訪問も歓迎している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	民生員や自治会長が運営推進会議のメンバーであり、地区の組長にもなり地域の行事等に参加をさせて頂いて交流を深めている。近隣の住民も気軽に訪ねて下さる。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ホームの協力医が週に一度往診し利用者の体調管理に努めている。入居前のかかりつけ医を希望されている方もおられその場合は基本的にはご家族に依頼をしているが病状を詳しく伝える時などは管理者が家族と同行することもある。	かかりつけ医に関しては、利用者、家族の希望も考慮され、受診は基本家族対応であるが、時には職員も対応することもある。ホーム協力医による往診が毎週あり、訪問看護も週1回である。また、歯科については随時の往診である。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週に一度訪問看護ステーションの看護師が訪れ日頃の健康管理や医療面での相談、助言、対応を行ってくれている。緊急の場合はホームの契約医師との協力関係も出来ている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には利用者や家族の不安が最小限になるよう援助、相談に乗り医療機関と家族が一丸となって速やかな医療が受けられるよう支援している。また、着替えや洗濯物の回収等人的支援も行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	延命治療の意思確認を行いながら、早い段階で本人や家族と十分に話し合い理解を得ている。医療行為が必要な場合は家族や協力医と連携を図り適切な対応に努めている。	重度化した場合の対応について、早い段階から話し合い、利用者や家族の同意を得ている。協力医とも連携しながらホームで対応しているが、常時医療行為が必要になると病院への入院となっている。	ホームにおける看取りについて、家族との方針の共有と職員の対応について、検討を重ねられたい。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	日常の申し送りやカンファレンスの時に予め担当を決め救急車の要請や手順等を確認し応急手当などの勉強会も行っている。緊急の入院時の為の持ち物等も用意されている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に二回以上の防災訓練を行い、緊急の際の連絡カードを作り不在など連絡のつかない場合は次に回す事を職員の全てが周知している。災害の際の食糧の確保は三日程度は飲料水を含めて備蓄してある。	消防署と連携して、全職員参加で、年2回、避難訓練を行い、利用者を前の駐車場まで、避難させている。また、法人の系列グループホームとの合同で防災訓練を実施し、救命救急を学んでいる。また、備蓄についても確保している。	今後も継続的に、地域の防災訓練への参加、相互の協力体制の構築を望みたい。また、夜間想定訓練も実施されたい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	下着の交換、トイレの誘導、入浴介助などには特に気を使い自尊心を傷つけない思いやりのケアを全ての職員で心掛けている。	長い付き合いから、馴れ馴れしくならないように、職員同士互いに気をつけている。利用者が自己決定できるよう例示をするなど、問いかけ方を工夫している。居室に入るとき、持ち物に触れるときは、必ず声掛けを行っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	職員は利用者の一人一人のその時の状態を押し量り、話し掛けを行ったり、時には傾聴し、利用者のご自身で選択し決定出来るように場面づくりを行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	起床時間も入床時間も特別なきまりは特に無くその方にあったスタイルで暮らしていけるようにしえんしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご自身のこだわりや生活習慣を尊重しその人らしさを保てるよう援助しケアに繋げている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	日々の献立は大体利用者と話し合っ決めてる事が多い。利用者ドライブがてら買い物を楽しみ、調理も出来る方にはお手伝いして頂いています。職員も同じテーブルに着き一緒に物を食べています。	当日の担当職員が献立を作り、可能な利用者も参加しながら調理を行っている。食材は、外出を兼ねて、利用者とスーパーに出掛けている。時に、庭で取れた野菜、近所の差し入れも食卓を賑わせている。また、外食をする機会もつくっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人一人の体調や水分量、食事の摂取量など、毎回記録し排泄量、血色等の気付きも記録に取り職員間での申し送りの際にも確認し共有を行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	利用者の状態に合わせてご自身で出来る範囲を見極め自尊心を傷つけないよう配慮し誘導を続けた効果があり今では毎食後の習慣になっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	夜間はポータブルトイレを使用する方もいるが利用者の睡眠を妨げない程度にトイレへの誘導を行い自立に向けた支援を行っている。	職員は、チェック表に記録をしながら、利用者のサインを見逃さずに誘導している。オムツの交換時には、居室に移動を促し、さりげない介助をしている。入居時、紙パンツであった方が布パンツに移行できた例もある。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	利用者の排泄パターンを記録し便秘気味の方には起床時の冷たいミルクやヨーグルトを提供し、メニューにフルーツを用い快便に繋げるよう努めている。改善が見られない方に対しては漢方の下剤や腹部のマッサージを取り入れている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	基本的には月、水、金、土の週4日を入浴日としてあるが、散髪をした日や夏の暑い日など利用者の希望を聞きながら対応をしている。利用者がリラックスして入浴が楽しめるよう個々にあった話題を心掛けている。	週3～4日、入浴の日を設けている。利用者の希望で入浴するが、週2～3回以上になるようになっている。洗える範囲は自分で洗い、職員は全身状態を見ながら介助している。さらに、しょうぶ湯、ゆず湯等で、季節感を出す工夫も行っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者の体調や行動、表情などを考慮し軽い運動や散歩に誘ったりしながら安眠に繋げている。季節ごとの気温に気を配り行きすぎた空調にしない配慮をしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	各利用者の薬説明書をファイルし全ての職員が理解、周知するよう徹底し、投薬の際は完全に服用するまで見守りを行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の利用者の得意な事を発揮できる機会を多く取り入れカラオケ、畑仕事、家事など意欲的に楽しめる雰囲気作りを行っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	食材、日用品の買い出し、郵便物の投函、外食など一年を通じて外出の機会はかなり多く利用者の楽しみとなっている。ただし希望されない利用者には無理強いせず別の機会に誘うようにしている。	天候が良い日には、庭で日光浴したり、畑を見たり、ホームの周りを散歩したりしている。2～3日に1回は、買い物を兼ねて、ドライブに出て、おやつを楽しんでいる。墓参りや法事出席の希望は家族に伝え、望みが叶うよう支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的にホームでは高額な金銭の所持については遠慮して頂いている。僅かな金額でも所持することで安心に繋がれると判断される時は家族、利用者と相談のうえ所持の受け入れを行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者の申し出や家族の希望に応じ好きな時に電話連絡が可能。プライバシーを守るため居室に持ち込むことも出来る。年賀状や季節のおたより等の支援も行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有の空間であるバス、トイレ等は表示をわかりやすくし、長く過ごす空間のリビングは皆の力作であるぬりえや習字、笑顔の写真を飾り暖かな雰囲気になるよう心掛けている。	民家改造のホームのため段差があるが、思い思いに寛げる雰囲気である。利用者と職員の一人ずつの大きな顔写真もあり、家族の希望で渡したこともある。また、座面の低い長いすど少し高いイスが置かれ、一人ひとりに合った椅子を選んでいる。	古い民家のため、トイレの不都合、耐震性等を考え、改築が決定された。温もりを大切にしたい、家庭的なホームとなることを期待したい。
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	施設は狭く居間と食堂を兼ねているが、庭は広くゆったりとしており職員に声をかけて、花の水やりや草取り、一人になりたい時などに行かれる方もいる。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ベッドはホームで準備してあるが持ち込みは可能。利用者の自立度や状況に合わせて布団の方もいる。持ち物に関しても規定は無く家族にも使い慣れたものを持参して頂くようアドバイスしている。	居室は、5畳ほどの洋室であるが、希望があれば布団にすることも可能である。使い慣れた椅子、タンス等が持ち込まれ、タンスには着物も納められている。利用者の作品、ポスター、家族の写真を貼っている方もいる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者の身体状況に合わせて混乱が起きないように寄り添い見守りをして、一人、一人の出来る力を発揮して頂き自立した生活が送れるように支援している。		

(別紙4(2))

事業所名 グループホームみおつくし

目標達成計画

作成日: 平成 23年 2月 18日

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。
目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	35	火災や地震等は昼夜を問わないので利用者さんが安全に避難出来る方法を全職員が身に付けられるようにし、夜間などは人員も少ない為特に訓練が重要と考える。	昼夜を問わず迅速な避難誘導をスタッフ全員が身につけて利用者の安全をより確実なものにする。	夜間の緊急対応マニュアルを作成しカンファレンス時や利用者さんが落ち着いている時などに定期的実践を試みる。	3ヶ月
2	38	三大介護に追われ、時にはスタッフ本位の介護になっているのでは？スタッフ同士勤務年数が長くチームワークは取れているが馴れ合いになっていないか？	スタッフの都合ではなく利用者さま一人一人に寄り添った介護を実践していく。	毎月のカンファレンスで自分自身を自己評価し、出来た点、こうすればもっと良くなるのでは？という振り返りの時間を設け自身を見つめ直す機会を作る。	12ヶ月
3		トイレの老朽化、洗面台の数など居心地の良い空間づくりには程遠い。その為にいつもおとなしい方が待たされている現実がある。	一人一人の利用者さんがそれぞれに居心地の良い安心で安全な共有空間にしたい。	共有空間を見直しより快適に暮らせるよう工夫を凝らして見る。	3ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月